

# JACET-Kansai Newsletter

No. 45 October 24, 2008

大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 木村 博是 (近畿大学) (Chapter President: Hiroshi Kimura, Kinki University)

事務局: 〒657-8501 神戸市灘区鶴甲 1-2-1 神戸大学国際コミュニケーションセンター 石川慎一郎研究室

(Chapter Office: c/o Dr Shin Ishikawa, School of Languages & Communication, Kobe University)

E-mail: jacetkansai@gmail.com URL: <http://www.jacet-kansai.org/>

郵便振替口座番号(Postal Account): 00940-4-187715 大学英語教育学会関西支部

## 「学士力」に含まれる英語運用能力

秋学期が始まり、今年度後半の授業や諸学会・研究会活動、そして早 AO、推薦等の入試業務でお忙しくお過ごしのことと思います。加えて、今年春先に公表され、まもなく最終答申案が出されるという中教審大学分科会教育部会の「学士課程教育の構築」審議の纏めの内容について先生方の大学でも話題になっているかと思います。

ご存知のように、これは、少子化、グローバル化、大学のユニバーサル化等の大学を取り巻く状況変化のなか、前世紀末より今世紀にかけての大学改革へ向けての方向性を示す一連の審議答申に連なるものです。私たち大学人は、現代の学生や社会的ニーズに応えるべく大学教育の内容や指導について様々な工夫と努力を重ねてきましたが、今、それらの「質」の確認と、導き出される結果の保証が求められようとしています。そのためアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに加えディプロマ・ポリシーを明確にし、「社会からの信頼に応え、国際通用性を備えた学士課程教育を構築」し、学部での教育を確かなものに、とあらためて求められています。この学士課程教育が目ざす「学習成果」が「学士力」と名づけられています。これは、教養教育と専門基礎教育によって培われるものとされていますが、私たち大学英語教育に携わるものとしては、勿論英語教育に関わる指針が気になります。

この学士力における英語力養成については、「英語等の外国語教育においては、バランスのとれたコミュニケーション能力の育成を重視するとともに、専門教育との関連付けに留意する」ことが挙げられています。

今、あらためて「読む・書く・聞く・話す」の四技能のバランスに留意することが挙げられ、EAP の観点での教育活動の展開と、特に、書くことの指導強化が求められているのは、従来、ともすれば実践的英語運用能力養成とは、以前の読解に偏っていた能力養成を、所謂会話力養成の強化、そして、聞く・話す力による情報交換・交渉能力強化へとシフトしてきた昨今の指導への省みのようでもあります。事実、最近、英語の話しことばによる伝達・理解力が優れてきた一方、英語長文の読み取りや文章作成に問題ある学生が多くなったようです。オ

理 原田園子 (神戸女学院大学)

ーラルでの遣り取りは一見流暢に。文法問題は解ける。しかし、文法力や文章力に欠ける長文英作文が目につくようになってきたのではないのでしょうか。

支部大会や研究会での研究発表、実践報告やシンポジウム等のテーマからも分るように、多くの大学において英語長文作成力の指導に、既に取り組んできていることですが、ESP や、場合によっては、各学科・学部の専門性を有する教員との協力体勢を組んでのアカデミック・ライティング指導の強化が今後ますます求められます。限られた単位・時間数の中での、話しことばと書きことばともに学士力としてのレベルに達する運用能力の養成には、更なる工夫と努力が必須です。そのためにも、大学英語教育学会員の研究教育における活躍がますます求められ期待されています。

## ■ 2008 年度 関西支部秋季大会の報告 ■

2008 年度 JACET 関西支部秋季大会が 10 月 12 日 (日) に神戸大学 国際文化学研究科にて開催されました。大会テーマは「大学生の英語力の現状にどう対応するか」で、3 連休の中日であったにもかかわらず 97 名の参加があり、成功裏に終了しました。

午前 10 時からの開会式に続き、意欲的なワークショップ 3 件と研究発表 6 件、そして、大会テーマに基づいたシンポジウムと、大変充実したプログラム内容でした。

秋季大会がスムーズに運営できたのは、大会開催に向けて周到な準備をしていただいた研究企画委員の方々の献身的なお力添えがあつてのことでした。特に、会場校の先生方のご尽力がなければ、このような素晴らしい支部大会は開催できませんでした。また、ご参加いただきました会員の皆様、本当にありがとうございました。

## ■ 『JACET 関西紀要』の投稿締め切りについて ■

『JACET 関西紀要』 第 11 号の投稿期限は 2008 年 10 月 31 日 (金) 午後 11:59 までとなっております。投稿予定の方は、ホームページ ([www.jacet-kansai.org](http://www.jacet-kansai.org)) をご参照のうえ、期限内にご投稿いただきますよう、よろしくお願ひします。

## ■ 第 2 回講演会のお知らせ ■

12 月 14 日（日）に第 2 回支部講演会が開催されます。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

### 関西支部 ESP 研究会特別シンポジウム

「ESP で変わる大学英語教育」

日時：12 月 14 日（日）午後 3:30 ～ 5:00

会場：神戸・三宮研修センター（各線三宮駅南へ徒歩 5 分。神戸市役所向い）

司会：幸重美津子（京都外国語大学）

講演：野口ジュディー（武庫川女子大学）「なぜ ESP？」

報告：森口稔（広島国際大学）「ESP アーカイブの作成」

## ■ 語彙研究フォーラム 2008 のお知らせ ■

関西支部のリーディング研究会が共催する、第1回 JACET リーディング研究会・英語語彙研究会合同研究大会が 12 月 6 日（土）に関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスにて開催されます。発表申し込みなどの詳細は、HP (<http://members.at.infoseek.co.jp/jacetcv/>) をご覧ください。発表申込締切りは 11 月 8 日（土）です。

## ■ 中・高・大英語教育連絡協議会のお知らせ ■

JACET 関西支部が共催している、「第 41 回近畿中・高・大英語教育連絡協議会」が 11 月 13 日（木）に神戸松蔭女子学院大学にて開催されます。奮ってご参加ください。

## ■ 2009 年度関西支部春季大会のお知らせ ■

2009 年度 JACET 関西支部春季大会は、京都外国語大学にて開催されます。日程などは現在調整中です。研究発表募集などの詳細は、1 月下旬に発行予定のニューズレターでお知らせいたします。また、関西支部ホームページにも随時情報を掲載いたします。

## ■ 海外学会参加報告 ■

### AILA 2008 に参加して

2008 年 8 月 24 日から 29 日にかけてドイツのエッセン（Essen）で AILA 2008 が開催された。エッセンはドイツの工業都市として知られるデュッセルドルフ（Dusseldorf）から鉄道で 30 分程離れた比較的小さな町で、cozy な雰囲気漂う田舎町であったが、学会期間中は各国からの参加者で賑わいを見せた。学会はエッセン大学（University of Duisburg-Essen）とそこから地下鉄で 30 分程離れた“Congress Center Essen”という二つの会場で進行した。会場間が少し遠く感じられたが、残暑の厳しい日本とは違い些か寒さを感じるほどの晩秋に近い気候であったため、移動もそれほど苦痛ではなく、むしろ学会参加者と出会う楽しさを感じられた。

大会テーマは“Multilingualism: Challenges and Opportunities”であった。基調講演では、バイリンガル教育の研究で知られるジム・カミングス教授の講演などもあり、全体的には多言語政策やバイリンガリズムについての研究発表が多かったように思えた。そのため、日本の英語教育学会ではあまり馴染みのない研究分野の発表が多かったが、ヨーロッパの外国語教育事情なども垣間見ることができるものもあり、興味深く思えた。他方、

英語教育に関する発表は、日本からの参加者によるものも多くあった。リーディング関連や語彙習得関連、ライティング関連の研究、そしてコミュニケーション方略、モチベーション、ディスコースに関するものや fMRI によるリスニング処理の研究など、最新の情報も含めて興味深い研究が多くあった。二つの会場で同時に開催されていたこともあり全て聞けなかったのが残念な限りである。会場では多くの JACET 会員の方とお会いすることができ、“JAPAN NIGHT”と称しての集いなど、学会発表の緊張も解れ、JACET の同士と共に和やかな夜を過ごすひと時もあった。また期間中は、日本だけではなく他国の参加者とも情報交換ができ、交流を深める機会を多く持てたと思う。これこそ国際学会の醍醐味ではないだろうかと感じている。夜は美味しいドイツビールを片手に英語教育談義を交わした思い出深い国際学会となった。次回は、2011 年に中国の北京で開催される。

氏木道人（関西外国語大学短期大学部）

実は、これが私にとっては初めて参加・発表する国際学会であった。発表会場の規模や聴衆の人数などはこれまで参加した国内の学会とそれほど変わらなかったが、当然ながら聴衆の中には外国の方（自分も含めて！）がおられ、当然ながら発表や質疑応答は英語で行われた。このような国際学会にでも参加しなければまず出会うことのない世界各地から参加している方々とお互いに興味を持つ事柄に関して共通のプラットフォームで議論できることの素晴らしさを実感すると同時に、これからの研究活動に対する大きなエネルギーをいただいた気がした。

また、ふだんは文献などを通してしか馴染みのない世界的な研究者の講演を間近で聴き、あわよくば直接話すことが出来るのも国際学会の魅力である。今回もそういった方々の講演や発表を聞くことが出来たのは本当に幸いであった。同時に、たとえ一級の研究者ではなくても、世界各国から集まった様々な研究者の発表を聞くことは大変参考になった。研究の動向を知ることが出来るのはもちろん、プレゼンテーションの仕方一つとっても国内学会とは違って、参考になるところ大であった。また、帰国後も何人かの方々と電子メール等で続いている交流は私にとっての大きな土産である。

国際学会への参加のもう一つの魅力はスケジュールの合間を縫っての見学である。今回は最終日の空き時間を利用して古城とドイツ最古の大学で知られるハイデルベルグに足を伸ばした。歴史を感じさせるハイデルベルグの町並みは素晴らしく、バスの中で出会った学生も親切であった。多くの楽しい思い出を胸に帰路につくことが出来たのは幸いであった。長谷尚弥（関西学院大）

## ■ 訃報 ■

初代 JACET 関西支部長を務めてくださった大浦幸男先生と、JACET 関西支部会員の河合忠仁先生（関西大学）がご逝去されました。故人の学会への貢献と、英語教育界への多大なる寄与を偲びつつ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。